

- 1…平成22・23年度新役員決定 他
- 2…評議員・専門委員会・種別委員会
4種リーグ開幕
- 3…技術委員会のこれから～坂庭委員長に聞く
- 4…特別座談会～SFAミッション1
- 6…大会記録
- 9…競技規則の改正
- 10…JFA 47FA訪問会議
- 11…平成21年度収支計算書
- 12…インフォメーション・編集後記



財埼玉県サッカー協会は、2022日本招致を応援しています。

●発行/発行人：会長・相川宗一 編集人：高橋 明 ●発行所/(財)埼玉県サッカー協会 住所：〒330-0074さいたま市浦和区北浦和 1-21-18雁ヶ音ビル204号室
Tel048-834-2002・Fax048-834-2004 http://www.saitamasfa.com/ (年間購読料 1500円)

平成22年・23年度新役員決定

去る3月16日の評議員会において新役員が選出され、同18日の理事会で承認された。4月22日には新役員による新年度初の理事会が開催され、ここで評議員を選出し、今期のSFAの陣容が決定した。



(財)埼玉県サッカー協会役員一覧

会長	相川宗一
副会長兼専務理事	横山謙三
副会長	星野隆之
理事	岩崎勝義 株式会社テレビ埼玉(新任)
理事	柴崎康之 フェアプレー・規律委員長
理事	坂庭 泉 技術委員長(新任)
理事	岡田 泉 審判委員長
理事	高橋 明 広報委員長
理事	西川誠太 科学委員長(新任)
理事	松本利春 総務委員長(新任)
理事	柏 悦郎 第3種委員長
理事	高橋勝行 東部地域連絡協議会(新任)
理事	宮崎幹夫 西部地域連絡協議会(新任)
理事	駒崎昌利 南部地域連絡協議会(新任)
理事	忍田行廣 北部地域連絡協議会(新任)
理事	橋本光夫 株式会社三菱自動車フットボールクラブ(新任)
理事	渡邊誠吾 NTTスポーツコミュニティ株式会社
監事	栗原靖治 税理士法人CS-One
監事	原田 明 さいたま市立栄和公民館
監事	船崎久壽 ふなさき総合事務所

2022年招致に一本化 ～FIFAワールドカップ™～

前号において、FIFAワールドカップ™ 2018/2022への立候補について紹介したが、日本招致委員会は、招致を2022年大会に絞り込み、2022年FIFAワールドカップ™日本招致委員会と名称を変更した。5月14日にはFIFAに「招致ブック」を提出し、日本の提案内容を明らかにした。

詳細については、<http://www.dream-2022.jp/>まで。「招致ブック」もWEB上で公開されている。



本庄市から日本代表・岡田監督へ、「必勝だるま」進呈

本庄市の吉田信解市長と同市児玉商工会青年部のメンバーが、日本代表の岡田武史監督に「必勝だるま」を進呈した。このだるまは、下半身が代表のユニフォームの柄でデザインされており、高さ60センチほどと大きなもの。吉田市長は「本庄の地から勝利を祈願して、日本社社のダルマをお届けしました」とのことだった。



前列左から川淵三郎キャプテン、岡田武史監督、吉田信解市長

FIFAワールドカップ™2010南アフリカ大会開幕

日本代表は初戦のカメルーンに1対0と勝利。オランダに0対1と敗れたものの、デンマーク戦に3対1と勝利し、決勝トーナメント進出を決めた。6月29日のパラグアイ戦に勝利し、ベスト4を目指す。

【日本代表・埼玉関係者】

中澤佑二(横浜F・マリノス)、川島永嗣(川崎フロンターレ)、阿部勇樹(浦和レッズ)
加藤好男(GKコーチ)、大熊 清(コーチ)



提供・吉川市役所



平成22年・23年度 評議員・専門委員会・種別委員会

評議員

小原 薫	東部地域連絡協議会 (新任)
小野 哲男	西部地域連絡協議会 (新任)
関根 芳男	南部地域連絡協議会 (新任)
金 一夫	北部地域連絡協議会 (新任)
天沼 達也	1種・社会人サッカー連盟
松原 裕	1種・大学サッカー連盟
吉原 尊男	1種・自治体サッカー連盟
松村 道彦	2種
森田 洋正	2種・高体連サッカー専門部
谷地昌史	3種・中体連サッカー専門部
鈴木 勇	3種・クラブユースサッカー連盟U-15
秋山 和雄	4種・少年サッカー連盟 (新任)
福沢 貢盛	4種・クラブユースサッカー連盟U-12 (新任)
長瀬 欣一	女子サッカー連盟 (新任)
高橋 昭夫	フットサル連盟
大木 正幸	シニアサッカー連盟 (新任)
濱名 哲也	フェアプレー・規律委員会
早乙女秀雄	財務委員会
斎藤 由雄	審判委員会
白土 功	技術委員会 (新任)
按田 薫	広報委員会 (新任)
二瓶 省三	施設委員会
塩野 潔	医事委員会
稲山 貴代	科学委員会 (新任)
小高 達朗	総務委員会 (新任)
大倉 浩	学識/弁護士
土川 正巳	学識
荒川 裕治	学識 (新任)

専門委員会

フェアプレー・規律委員会

委員長 柴崎 康之	県立南陵高校
委員 濱名 哲也	県立浦和工業高校
委員 柏 悦郎	さいたま市立本太中学校
委員 安元 利光	県立大宮工業高校
委員 野沢 昌弘	ふじみ野市役所

財務委員会

委員長 宮田 典男	
委員 早乙女秀雄	女子連盟
委員 月岡 芳和	栃木銀行松伏支店
委員 斎藤 和信	蕨市役所
委員 鈴木 勇	クラブ連盟(U-15)

技術委員会

委員長 坂庭 泉	(財)埼玉県サッカー協会
委員 白土 功	NTTビジネスアソシア東日本
委員 元井 淳	大宮アルディージャ
委員 高橋 俊行	クラブ アトレティコ アレグレ

審判委員会

委員長 岡田 泉	県立川口青陵高校
委員 濱名 哲也	県立浦和工業高校
委員 斎藤 由雄	さいたま市立田島中学校
委員 紫藤 實	
委員 森山 武夫	(財)埼玉県サッカー協会
委員 木村 滋	県立上尾南高校
委員 田中 忍	鶴ヶ島市立南小学校
委員 北澤愛一郎	(株)愛知コーポレーション
委員 宮崎 剛雄	(株)オフィスサーティナイン

広報委員会

委員長 高橋 明	(財)埼玉県サッカー協会
委員 按田 薫	ベースボールマガジン社
委員 砂生 敏一	埼玉新聞社
委員 小澤 純	電脳堂
委員 荒川 裕治	OFFICE ARAKAWA
委員 戸刈 淳	浦和レッドダイヤモンズ
委員 原木 壮輔	大宮アルディージャ

施設委員会

委員長 二瓶 省三	県立岩槻高校
委員 船越 良	埼玉スタジアム2002
委員 下谷 新一	駒場スタジアム
委員 近藤 勝	NACK 5スタジアム
委員 天沼 達也	クマガヤスポーツ
委員 市原 雄心	県立浦和西高校
委員 杵渕 伸治	クラブユース連盟
委員 浅見 邦男	少年連盟
委員 田中 誠	女子連盟

医事委員会

委員長 鶴岡 明	鶴岡医院
委員 塩野 潔	塩野胃腸科医院
委員 丸山 正重	丸山記念病院
委員 諏訪 敏一	深谷赤十字病院
委員 宇治 元	医療法人宇治病院
委員 大滝 栄典	大宮整形外科医院
委員 仁賀 定雄	浦和レッズ

科学委員会

委員長 西川 誠太	平成国際大学
委員 安松 幹展	立教大学
委員 稲山 貴代	首都大学東京
委員 大木 薫	首都大学東京
委員 石崎 聡之	芝浦工業大学
委員 戸刈 晴彦	平成国際大学

総務委員会

委員長 松本 利春	埼玉縣信用金庫
委員 篠田 秀実	大日本印刷(株)
委員 小高 達朗	埼玉縣信用金庫
委員 森山 武夫	(財)埼玉県サッカー協会

種別委員会

第1種委員会

委員長 天沼 達也	クマガヤスポーツ
委員 松原 裕	獨協大学
委員 富岡 孝三	(有)富岡商店
委員 今成 知尚	埼玉工業大学
委員 小島 功	
委員 吉原 尊男	川越市役所

第2種委員会

委員長 松村 道彦	県立浦和高校
委員 森田 洋正	高体連専門委員長
委員 芹澤 正明	クラブU-18代表・ユースリーグ担当
委員 田中龍太郎	高体連副委員長・ユースリーグ担当
委員 斎藤 毅	クラブ担当・ユースリーグ運営委員
委員 二見 元	高体連副委員長・ユースリーグ担当

第3種委員会

委員長 柏 悦郎	さいたま市立本太中学校
委員 鈴木 勇	大宮フットボールクラブ
委員 谷地昌史	さいたま市立浦和中学校
委員 都所 亮介	県立伊奈学園中学校
委員 小内 幸一	戸田市スポーツセンター
委員 芹澤 正明	ACフツウロ川口

第4種委員会

委員長 秋山 和雄	
委員 花井 正彦	
委員 田中 靖彦	
委員 大下 修司	
委員 河野 雅明	
委員 浅見 邦男	
委員 福沢 貢盛	

女子委員会

委員長 長瀬 欣一	長瀬保険
委員 河合 一武	武蔵短期大学
委員 筑井 信夫	(有)筑井新聞店
委員 島田 俊一	
委員 早乙女秀雄	エルフェン狭山

シニア委員会

委員長 大木 正幸	NTT東日本一埼玉 営業部
委員 星野 幸男	さいたま市水道局
委員 星野 知昭	(株)宝印刷
委員 鈴木 誠一	関東信越国税局 総務部

フットサル委員会

委員長 高橋 昭夫	
委員 宮崎 剛雄	
委員 早川 祐司	
委員 桜井 厚	
委員 大沢 勝志	

4種リーグ、スタート

今年も4月24日から「第4回埼玉県第4種リーグ戦」(後援 埼玉県教育委員会/NHKさいたま放送局/テレ玉/FM NACK 5/埼玉新聞社、協賛 埼玉縣信用金庫/プーマ/アストロ、協力 JAGグループ/さいたま、特別協力 浦和レッドダイヤモンズ/大宮アルディージャ)が、スタートしています。県内各地で、370チームが参加しています。ご声援をお願いします。



技術委員会のこれから～ 坂庭泉・新技術委員長に聞く

今年度の大きな動きとしては、SFAとしても要の委員会である技術委員会の長に、坂庭氏が就任したことだろう。これまで指導者養成担当の副委員長として、ユースダイレクターとして活躍してこられた。この変動する流れの中で、どのように舵を取っていくのだろうか。今後の抱負を伺った。

—まずはどのような方針を掲げられているのでしょうか。

坂庭 先日、各種別委員長と技術委員長にも集まってもらった席上で話をしたのは、技術委員会として大会の分析を行うこと、県トレセンは技術委員会で行いますが、地域のトレセンについてはやれるところが順次、地域にお任せしたいということです。あと、JFAの取り組みというのが、指導者への指摘が多いんですね。リーグ戦をやってほしいとか、8人制サッカー、リスペクトプログラムを展開するとか。そういう意味でも、指導者養成やリフレッシュ講習会で、何らかのアクションを起こさなければならぬと言いました。

あと方針ではないのですが、技術委員会からの連絡は今まで各種別の技術委員長にしていたのですが、これを各種別の委員長を通じて連絡するようにします。これまでを見て、伝わりきれていないことが多いので、種別の中で認められた形で事業ができるようにしたいと考えています。同時に、種別の技術委員長の人選を改めて確認しました。今後は大会の分析をして、様々な要望を出していきたいと思っています。もちろん、それを受け入れるかどうかは種別にお任せします。なぜなら、普及・育成・強化というのは大会があつてのこと。その大会を運営するのは種別の皆さんだからです。ただ、技術委員会からの進言の意味を理解していただくためにも、技術委員長には大会運営などにきちんとモノが言える人材を置いていただきたいのです。

もう一つ、トレセンと国体(少年)に関してです。今、指導者の勉強や、経験を積んだことも含めスタッフを考慮していますが、そうではなく子供たちのためにという視点で考えたいと思います。子供たちにとっての適任者をお願いしたいと考えています。もちろん、受けただけかどうかは別ですけど。

—大会の分析をするということですが、現状の大会についてはどうお考えですか。

坂庭 クラブユースだと1会場で3試合。11人とサブが14人。これでリーグ戦をしていますが、これではサブに入っている子供たちがうまくなる機会を逸しているように思うのです。高校もそうです。やはり、1日1会場1試合のリーグ戦を行い、その前後でBチーム同士などのゲームを組む、というのがいいと思います。というのは、今の埼玉の練習環境を見ていると、土日以外で広いグラウンドで試合できる環境がないのです。平日の部活を見ていると、いろいろな部活と一緒にですから少し詰め状態です。やはり「サッカーをやる」ということが大切だと思うのです。

強化＝トレセンと思われているようですが、大会が重要なのです。特に中体連はトレセンよりも、大会があつたほうが良いと思うのです。試合環境という意味では、紅白戦でもいいのです。とにかくサッカーをさせてあげたいのです。そうでなければ、いい選手というのは、出づらいのではないのでしょうか。

—大会の見直しが急務ということですね。

坂庭 特に関東トレセンリーグや関東リーグが日程を難しくしています。クラブユースや高校女子の関東大会を見ていると、1つの県から何チームも出て行き、それで試合が多くなり、県内のリーグ戦や大会の日程が限られてしまっています。まずは、県内が大事なのです。

また、種別に対してだけでなく、関東協会やJFAに対しても同様なことを言っていこうと思っています。ですから技術委員会だけでなく、種別からも同じように関東やJFAに言ってもらえるようにしなければなりません。ここはブレないようにしなければならぬところです。

—そして、トレセンの位置づけも変わるということですか。

坂庭 強化というのはチームでの活動とトレセンでの活動の両方があると思っています。ただ、JFAからはトレセン・選抜を中心とした「強化」がインフォメーションされています。思うに、基本は子供たちをチームで、地域で、市町村でと、長い目で育てることではないのでしょうか。

高校も含めて、どうしても「集める」ことになりがちですが、地域で育てるのも強化だと思うのです。47FAが行う強化こそ、一貫指導。18歳で、22歳で一人前の選手になってくれればいいのです。県内でも人工芝のグラウンドを持つ大学が増えてきた。これで6歳から22歳まで自宅から通いながらサッカーを続けられる環境ができつつあるじゃないですか。大学も含めた「地域」で子供たちを育ててほしいのです。



坂庭技術委員長

—そのためには、指導者養成がより重要になるのですね。

坂庭 求められるのは指導者のレベルアップです。もしかしたら、指導者自身の考え方を変えていかなければならないかもしれません。例えばどの種別でも、埼玉を制することに意識が強すぎています。目先の勝利に対して過熱しすぎているようにも見えます。

そこで、どの種別も市町村単位、地区単位での大会を多くしてほしいのです。その上で、必要ならばトレセンをやらしてもらえばいいと考えています。まずは「あの地区からいい選手が多く出てきたね」という話が聞かれるようにしたいのです。地区の日程に応じた大会、トレセン、講習会を行ってほしいのです。結果、18歳のときにいい成績を取めた、いい選手が出たということが望ましいと考えるのです。

もちろん、その素質が早く出るのも、中澤(佑二)のように後になって出てくるのも悪くないのです。18歳までのところで選手の優劣をつけるのは、個人的に好きではありません。その年齢まで、いいモチベーションを持ったまま育てあげることが、47FAの強化ではないでしょうか。試合は近いところ同士でやってくれればいいのです。

先日、インストラクター会議がありましたが、その中で「A級U-12よりも、C級U-18、D級U-18が欲しい」と言ったんです。手軽な1泊2日で注意事項を話せる場が欲しいのです。C級の指導要領にはフルピッチでの原理原則が入っていないんですよ。でも、C級を取った人で2種や3種を指導する人が多いのです。A級やB級はなかなか取りに行けませんからね。でも今回、B級のメニューをリフレッシュ講習会でやってもらっていいという確約をもらってききましたので、取り入れていきたいと思っています。

そこで思うのですが、指導者養成もリフレッシュ講習会も、小さな単位で行ってほしいということです。その地区のその種別の現状を一番知っている人に課題を抽出してもらい、学んでもらいたいのです。そのためには、インストラクターには企画力を求めていくつもりです。だから、地域の中で適任だと思われる人が誰なのかを見て回りたいのです。

—チーム活動重視ということですね。

坂庭 県や地域でやるトレセンは、ナショナルトレセンのためではなく、県や地域のために行うものではないのでしょうか。4種のモデルトレセンでうまくなって、地域の3種に進んでくれるといいのです。

チームできっちり練習して、試合をやっていけばトレセンはなくてもいいと思っています。リーグ戦などで指導者同士が顔を合わせる中、誰もが「あの子、いいね」と思える子供をナショナルトレセンに推薦すればいいのです。その後は、JFAのスタッフが決めることです。

また、基準を設けて選考すると、その基準から外れた子供たちが見えなくなり、消えていくのです。それはもったいないことです。早い時期から「いいサッカー」をすることが正しいわけではありません。だから発育発達の考え方があるのです。

やはり、ボールを回すのではなく点を取る。守るのではなくボールを奪うという指導をしてもらいたいですね。

この春から、3種のクラブが秋の大会を春からのリーグ戦とし、中体連も秋から地区でリーグ戦を始めると聞いています。試合が増えることはうれしいことです。選手はもちろん、指導者も試合を経験できる場が増えるのですから。あとは、年間を通じてやってもらえるといいですね。

実際に大きく変わるのは来年度からだろうか。今後、様々なアクションが起こることだろう。その都度、話を伺っていきたい。

最後になるが、これまで10年もの間、埼玉の「技術」を牽引してこられた小林武前技術委員長には、皆さんを代表して感謝を申し上げたい。

特別座談会～SFAミッション1

「学校を核にした地域活動、地域スポーツ活動の活性化」を考える

出席者 芹澤正明氏 (AC FUTURO 川口代表) 浅見邦男氏 (鶴ヶ島市スポーツ少年団理事長、坂戸ディプロマッツ代表)
友清 創氏 (埼玉新聞運動部長) 高橋 明 (SFA 事務局長・広報委員長)

学校の顧問には異動がある

——本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございました。さっそくですが、お一人ずつ自己紹介を兼ねて、学校と地域スポーツに関して一言いただけますでしょうか。

高橋 本日はありがとうございます。長く戸田市教育委員会で生涯学習、社会教育などを担当し、義務教育でのスポーツは専門分野でした。また、学校と地域の連携、「学社連携」を考えていました。戸田エリアのことしかわかりませんが、戸田は比較的うまくいっていたと思います。そういう話ができればと思います。よろしく願います。

浅見 鶴ヶ島市スポーツ少年団理事長をしております、グラウンドをお借りしている長久保小学校の学校協議会「地域の宝を育てる会」の役員もしており、学校との協力体制を作っています。学校、PTAそして地域の人が集まり、年2回は大掃除するなど、地域的にはコミュニティができています。発足して30年になりますが、ずっと学校と話し合いをしていますし、鶴ヶ島市はどの学校でもそういう環境にあります。

芹澤 2002年にスクールから立ち上げ、今、U-15、18のチームも持っています。ハードはありませんので、学校のグラウンドをお借りして活動しています。スタッフは教員が半分にもともとクラブを運営していた人、民間の方も含まれています。サッカーを通じて、スポーツの理念を理解し、一流の社会人になるよう指導しているところですが、まだ8年目。模索しながらやっているところです。



芹澤正明氏

友清 レッズ、アルディージャの担当をしながら、中学、高校の大会を取材してきました。途中3年間警察担当をしていますが、この6月に戻ってきたところです。異動前も、学校体育とクラブという2つの形をどのようにしていけばいいのか、課題になっていたことを思い出しました。学校の部活動は、指導者が異動するとなくなってしまうんですね。指導者次第です。ですが、日本は学校体育中心。だからこそ学校の施設をどう活用するかです。今、学校とクラブとの連携ができていくのかなという変革期だと思っています。

——ありがとうございました。まず、浅見さんに長鶴少年団の利用状況をお聞きできますか。

浅見 今、一緒に学校を利用しているのは、親御さんのソフトボールと子供会です。日曜の朝、7時から9時まで使っているらしいです。野球は一時あったのですが、隣の学校のグラウンドで活動されています。ですので、比較的自由が利くという状況です。

あと、地域の中学校でも「部活動検討委員会」にも入っていましたが、その中で感じたのは、顧問の先生によっては「すべて生徒の自主性に任せる」という方もいらっしゃるということです。顧問の先生方も大変でしょうが、子供たちにとって、一番大事な時期なのに、それでいいのでしょうか。03年に部活動が学校教育から社会教育へと変わり、そこに外部指導者が入っていましたが、試合のベンチには入れないなど指導の限界を感じた方が

いる状況です。また、熱心な顧問の先生がいれば部活に入るとは思いますが、先生次第ですね。

友清 指導者がどこにいるのかが大事ですね。

芹澤 親としては「あと1、2年はいけるだろう」と思っている、本人はだいたいいつ頃異動するのかはわかっていますが、言えないのです。「あの学校に行ったら、先生がいなくなった」という話も聞きます。自由学区になってから、親御さんも敏感になっています。



浅見邦男氏

マナー、モラル……実は大人の問題

——なるほど。もともとFUTUROさんは、どのように活動を始められたのですか。

芹澤 スタッフに川口の芝中の顧問している方がいて、校長先生のご理解もあり、優先的に利用させていただくようになりました。ですが、U-18、15については、「来週の日曜日はどこで練習するの?」という状況です。

こちらは借りる側ですから、どなたかが「なんだ、あのクラブは!」と言えば、借りられなくなる立場です。マナーを守れないとダメですし、気配りが大切です。また、お借りしているお借りしている学校とサポートする人たちすべてをリスペクトするよう口酸っぱく言っています。

——もう一つ。元校長先生というお立場から、貸す立場としては、いかがですか。

芹澤 私がいた中学校では、いわゆるハードルはありませんでした。登録していただいて、月1回の学校開放委員会で割り振るという感じでした。まずは貸してみても、問題がなければ、そのまま継続して利用していただきます。

高橋 学校のガードは固いですよ。最近、いろいろな事件があり、外部に貸すということにアレルギーがあります。

戸田では、17時以降は学校の管理下から外しました。「その後の時間は社会教育だ」としたのです。もちろん、優先権は学校にあります。照明がついている学校は21時まで解放しています。あともう一つ、16時から17時まで、地域に開放しようと。その間は、親子でキャッチボールとかやってほしいという時間帯にしたのです。

芹澤 行政が決めたのですか。うらやましい。

友清 行政がおおらかなルールを決めてくれると、ハードルは下がりますね。

浅見 あとはモラルの問題ですよ。たばこの吸い殻が落ちていなんて、子供ではなく、大人のモラルですからね。

——そこは、地域の人々と学校との信頼関係ですね。

高橋 戸田は学校ボランティア制度というのがあり、外部の人にも加わってもらう組織があります。それで学習支援や学校行事に

参加してもらおうのです。民話を聞かせるとか、草履作りを体験したりと。

浅見 以前、県からそういう会を作るように要請がありましたね。あと市民として使えるという権利を主張するのであれば、義務もあるのでは、汚れていれば拭く、ゴミは拾う、使ったあとはトンボをかける……それがモラルだと思います。

友清 それが信頼関係ですよ。地域活動にスポーツの関係者が参加する——サッカーはサッカーだけ、ではなく、ということです。それが地域社会の理想型ですよ。

高橋 日本でサッカーができるのは、学校のグラウンドか公営の競技場くらいです。そうなると、サッカーというのは学校のグラウンドを抜きに考えられません。グラウンドを持っていないクラブは、学校のグラウンドか公営の競技場で練習するしかないので。Jクラブだって、自前のグラウンドを持っていないところが多いのですから。

——**芹澤さん、クラブ内部での、モラルなどの啓発はどうされていますか。**

芹澤 必ず「入部式」を行いクラブの理念と fairplay の精神を伝え、保護者会を通じてですね。あとはクラブのエンブレムがありますが、その意味を話しています。「このエンブレムに歴史があり、きみたちが歴史を積み上げていくんだ。そこに誇りを持ってほしい」と。

——**わかりました。あと、4種でリーグ戦が始まって4年目になります。長鶴さんは、全試合「ホーム」なんですよ。**

浅見 小学校に理解があるから使えるのです。何カ月も前からグラウンドを予約できないというチームは多いです。こちらがアウェイの場合は「そちらのホームですから」と運営はお任せしています。将来的に、グラウンドを借りられるようになったら、本当のホーム&アウェイにすればいいと思います。

——**いつも練習で利用しているグラウンドで「ホームゲーム」をする利点はなんですか。**

浅見 移動が少なくて済むし、OB たちも見に来てくれるし、近所の人たちも見に来てくれます。そういうところでもコミュニティづくりに役立っているのかなと思います。

芹澤 最優先で使えるグラウンドがあるのはうらやましいですね。「雨が降ったらどうしようか」というのは毎日の悩みです。

地域から県へ、代表へ

——**施設は大事ですね。友清さん、競技場で見るサッカーもいいですが、学校のグラウンドで見るサッカーも楽しいんじゃないですか。**

友清 競技場は競技場のよさがありますが、学校のグラウンドだと、ホントに観客は目の前で見るができますからね。その距離感は違います。こちらもいいと思います。

個人的には、全国高校選手権埼玉大会のベスト8からは、すべて Nack5 スタジアムでやってほしいと思っていますが、まずは地域の皆さんの声援を受けて試合をし、そこから Nack や埼玉スタへ「送り出す」というイメージを持つことがで



友清 創氏

ければ、地域コミュニティとしては理想じゃないですか。

——**それが通えば、子供たちも地域への愛情が生まれてくるのではないのでしょうか。**

友清 02年のワールドカップは、上野くん(良治氏)が候補には入りましたが、最終的には埼玉県出身の選手が一人もおらず、寂しい思いをしました。06年に中澤くん(佑二)が入り、今年の中澤くん(佑二)と川島くん(永嗣)が入りました。先日、川島くんが代表に選ばれた日に話を聞きに行ったのですが、「地元で育てられたことを感じています。トレセンで『世界を目指そう』と言われ意識したんです」と。彼の場合、小・中・高、そしてアルディージャと地元で育てられ手塩にかけた代表選手です。それだけに地元は盛り上がりますし、うち(埼玉新聞)も愛着を持って書けるのです。それがレギュラーとなり、カメルーンに勝ち……これで代表チームに対する思いに、また違った深みが出てきます。あの二人のように、埼玉育ちが一人でも多く出てくれればと願っています。

芹澤 中学校の顧問も大変で、もし学校が忙しいと、サッカーの指導どころじゃないですからね。

浅見 地域型スポーツクラブもわかるのですが、現実には厳しく、学校の壁はあつすぎます。私は2種のチームは持たずに、高校にお願いしているところですよ。

高橋 あとチーム名に地域名もつけてほしいですね。ただのカタカナじゃ、わからないですよ(笑)。

友清 それはわかります。地域名が入っていると、わかりやすいですよ。

高橋 それが郷土愛につながっていくと思うんです。埼玉SCも「さいたま」SCとひらがなにし、[さいたま市]をホームタウンとしたんですね。



高橋 明氏

——**それも地域との信頼関係につながりますね。またクラブも、スタッフ全員が地域の人だと理解されると思うのです。顔が見える関係とでも言えばいいのでしょうか。引越してきてもいいじゃないですか。そういうことも信頼につながると思います。**

高橋 中学校の顧問の先生が異動したならば、地域が責任を持って指導者をあてがう、というようなシステムができればいいですね。

——**市町協会の協力が不可欠ですね。最後は「信頼関係」ということでしょうか。今、苦勞されているクラブの参考になればと思います。長い時間、ありがとうございました。**



大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

埼玉県社会人リーグ1部

●6月20日現在(暫定順位)

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	坂戸シティー	28	9	1	0	28	6	+22
2	FC西武台	18	6	0	4	29	14	+15
3	パイオニア川越	15	5	0	4	13	13	0
4	飯能セボゾータス	14	4	2	3	17	16	+1
5	武南クラブ	12	4	0	5	17	27	-10
6	与野蹴魂会	5	1	2	5	8	22	-14
7	AVENTURA KAWAGUCHI	4	6	1	3	28	17	+11
8	浦和レッズアマ	3	1	0	6	7	20	-13
9	与野八王子クラブ	1	0	1	6	7	24	-17

第40回全国自治体職員サッカー選手権大会埼玉県予選

5月8日～29日 駒場サブグラウンド他

準決勝	さいたま市	11-0	上尾市
	本庄市	0-4	所沢市
3位決定戦	上尾市	7-1	本庄市
決勝	さいたま市	3-2 (延長)	所沢市

※上位3チームが南関東大会へ出場する。



決勝 さいたま市 vs 所沢市

大学

埼玉県大学リーグ1部

●第6節終了時

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	城西大学	15	5	0	1	17	8	+9
2	東京国際大学	15	5	0	1	15	6	+9
3	平成国際大学	13	4	1	1	16	5	+11
4	埼玉大学	9	3	0	3	12	14	-2
5	文教大学	6	2	0	4	8	11	-3
6	埼玉県立大学	4	1	1	4	6	18	-12
7	埼玉工業大学	4	1	1	4	11	16	-5
8	獨協大学	3	0	3	3	8	15	-7

2010年度 総理大臣杯県予選

5月4日～16日 埼玉スタジアム第2他

第1代表決定戦	文教大学	1-0	城西大学
第2代表決定戦	平成国際大学	3-2	東京国際大学

※平成国際大学が関東代表決定戦に出場する。

2種

平成22年度 高校サッカー関東大会 埼玉県予選

4月11日～25日 駒場スタジアム他

市立浦和	4	3	0	2	4	川口北
国際学院	0					
東農大三	2	0	3	5	1	伊奈学園
大宮南	1					
昌平	3	0	2	3	1	大宮東
浦和学院	1					
聖望学園	1	5	2	3	0	成徳深谷
正智深谷	9					

※西武台は3年連続8回目の優勝。正智深谷は初出場となる。



決勝 西武台 vs 正智深谷

●平成22年度 高校サッカー関東大会埼玉県予選を振り返って

為谷 洋介 (東京成徳大学深谷高校)

「西武台3年連続6度目の栄冠」

平成22年度 高校サッカー関東大会埼玉県予選は、各支部新人戦の上位24チームと昨年度の選手権ベスト8(中央リーグ)を加えた32チームから関東U-18プリンスリーグに出場している武南・浦和東を除いた30チームで、トーナメント戦がおこなわれた。決勝戦は、正智深谷VS西武台という実力校同志のカードとなった。

正智深谷は第1シードの市立浦和を準決勝で、西武台は勢いに乗る川口北を準決勝で破り勝ち上がってきた。決勝戦は、お互いの意地がぶつかり合う壮絶な打ち合いになり、延長戦の末5-3で西武台が栄冠を獲得した。西武台のエース清水と正智深谷のディフェンスリーダー福田のマッチアップは迫力があり見応えがあった。

優勝した西武台は、前線から激しくプレスを掛け、高い位置でボールを奪い、少ないタッチと早いパス回しでボールを動かし、ピッチを広く使い攻撃するのが特徴であった。一方、正智深谷は、守備がしっかりしており、サイド攻撃から得点を狙う仕掛けが見られた。

3位の川口北は、FW佐藤を攻撃の軸に、失点しても粘り強く追いつき、最後まで西武台を苦しめた。同じく3位の市立浦和は、MF森を起すに攻撃するも、正智深谷のDFに阻まれ準決勝で涙を飲んだ。

大会を振り返り、技術・戦術的に見ると攻撃面において、前線に早くボールを送り込み、起点を相手陣内で形成するチームが多く見られた。DFはボールを動かしながら前線の選手にできるだけシンプルにボールを配球し、動き出しや判断を早くすることを心がける意識は見られたが、試合全体がスピーディーになりすぎてしまい、ラストパスに精度を欠きフィニッシュが雑になるシーンが多く見られた。

守備面においては、自陣のゴール前においてボールウォッチャーになってしまうシーンが見られ、クロススの精度が高いチームと対戦すると簡単にゴールを奪われてしまうことが多いように感じた。守備におけるポジション取りを含めて見直す必要があるように思う。

コンディショニングにおいても、4月の第2週から始まった関東県予選は、新学期が始まり、あわただしい中で大会であった。平日は真冬のような寒さや雨で、試合当日は初夏を思わせる天気。季節外れの雪による試合当日の会場変更。そういった意味で、体はもちろんのこと、心のタフさがもたらされた大会であったように思う。

最後に、関東大会本戦に出場する2校は、県予選では攻撃にまわる時間が長い試合も多かったように思うが、本戦では守備にまわる時間が長くなるゲームもあるかもしれない。試合の中で、色々なことを想定内にながらゲーム運びを期待したい。

3種

2009年第3回埼玉県ユース(U-14)リーグ

●5月22日に全日程終了

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	クマガヤSC	20	6	2	1	24	4	+20
2	KASUKABE	19	6	1	2	27	13	+14
3	KAMU	18	6	0	3	35	8	+27
4	FESTA	18	5	3	1	21	6	+15
5	HAN	18	5	3	1	20	11	+9
6	プレジール	13	4	1	4	11	15	-4
7	本太中	9	3	0	6	11	20	-9
8	南浦和中	6	2	0	7	16	33	-17
9	入間野田中	6	2	0	7	10	30	-20
10	春日部大増中	3	1	0	8	3	38	-35

※2010年度からは廃止された

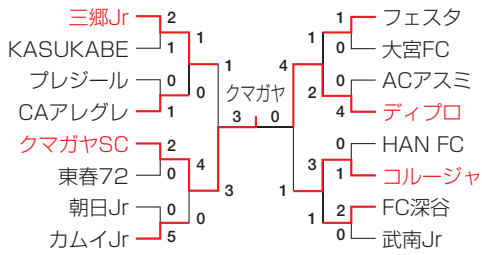
2010年第3回埼玉県ユース(U-15)リーグ

●6月12日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	KASUKABE	6	2	0	0	11	7	+4
2	三郷Jr	4	1	1	0	2	1	+1
3	武南Jr	4	1	1	2	5	6	-1
4	FC深谷	4	1	1	2	8	10	-2
5	ディプロマッツ	3	1	0	0	3	0	+3
6	カムイJr	3	1	0	0	3	1	+2
7	大宮FC	3	1	0	1	4	6	-2
8	クマガヤSC	1	0	1	0	0	0	0
9	狭山Jr	0	0	0	1	1	3	-2
10	新座二中	0	0	0	2	2	5	-3

第25回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 埼玉県予選

5月15日～6月12日 NACK5スタジアム大宮他



●3位決定戦 コルージャ 2-0 三郷Jr

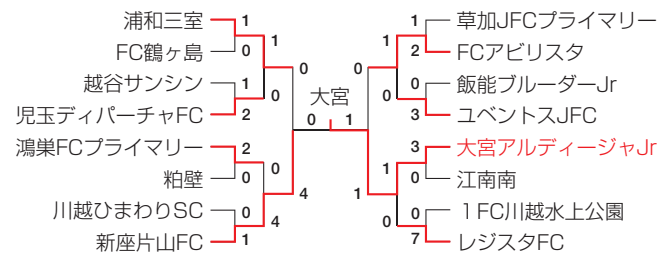
●第5代表決定戦 CAアレグレ 0-3 カムイJr
フェスタ 1-2 FC深谷

※優勝したクマガヤSCを始め5チームが関東大会に出場する。

4種

第34回全日本少年サッカー大会埼玉県大会

6月6日、13日 埼玉スタジアム第2他



※大宮アルディージャは2年連続優勝となり、全国大会に出場する。新座片山、アビスタと浦和三室は、関東大会に出場する。



決勝
大宮アルディージャ vs 新座片山

女子

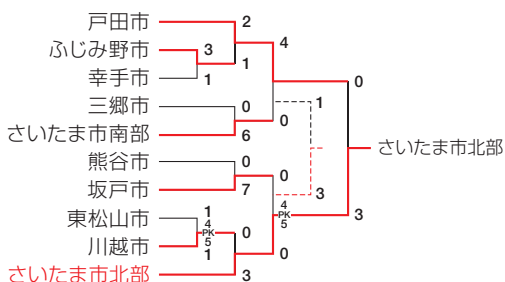
第17回埼玉県女子サッカーリーグ1部

●5月16日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	尚美学園大学	9	3	0	0	15	1	+14
2	大東文化大学	6	2	0	1	6	5	+1
3	上福岡	3	1	0	0	4	1	+3
4	尚美学園大学ピinks	3	1	0	2	3	4	-1
5	JAM-G	0	0	0	1	1	4	-3
6	戸木南	0	0	0	1	0	5	-5
7	大宮	0	0	0	2	0	9	-9
8	エルフェンマリ	0	0	0	0	0	0	0

第23回埼玉県民総合体育大会(サッカー競技)一般女子

5月16日～30日 堀崎公園グラウンド他



※さいたま市北部が優勝

平成22年度学校総合体育大会埼玉県大会

●決勝リーグ

	本庄第一	久喜	埼玉平成	松山女子	勝点	得失差	順位
本庄第一	*	○1-0	○2-1	○4-0	12	+6	1
久喜	●0-1	*	○2-0	○6-0	8	+7	2
埼玉平成	●1-2	●0-2	*	○3-1	4	-1	3
松山女子	●0-4	●0-6	●1-3	*	0	-12	4

※2年連続10回目の優勝となった本庄第一と、準優勝の久喜、3位の埼玉平成、4位の松山女子が関東大会に出場。5位の浦和西はプレーオフに出場。

第7回埼玉県女子U-15リーグ・1部

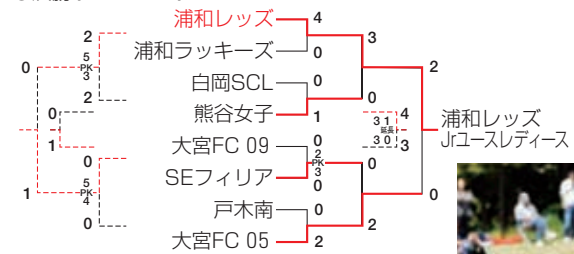
●6月19日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	浦和レッズJr	16	5	1	0	38	1	+37
2	エルフェンマリ	9	3	0	1	6	2	+4
3	大宮U-15	9	2	3	1	5	5	0
4	河内ジュベニール	8	2	2	0	13	1	+12
5	戸木南ボンパース	8	2	2	1	10	7	+3
6	FC熊谷女子	8	2	2	2	12	10	+2
7	白岡SCL	8	1	5	1	7	8	-1
8	越谷レディースF	1	0	1	1	1	2	-1
9	大宮U-14	1	0	1	3	2	11	-9
10	パシールFC	1	0	1	3	4	23	-19
11	SRフィリアFC	0	0	0	2	1	3	-2
12	FC JAM-G	0	0	0	2	0	25	-25

第15回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会

4月25日～5月1日 埼玉スタジアム第4他

●決勝トーナメント



※浦和レッズジュニアユースレディースが優勝

決勝 浦和レッズ vs 大宮 FC 05



シニア

シニア40南部リーグ

●6月6日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負
1	パルス	12	4	0	1
2	浦和	12	4	0	1
3	新明	10	3	1	1
4	鴻巣	10	3	1	0
5	所沢	8	2	2	1
6	八潮	8	2	2	1
7	NTT	7	2	1	2
8	川口	6	2	0	3
9	越谷	6	2	0	2
10	蕨	4	1	1	2
11	東春	4	1	1	3
12	川越	4	1	1	2
13	与野	3	0	3	2
14	大宮	3	1	0	4
15	戸田	1	0	1	3

シニア40北部リーグ

●6月13日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負
1	本庄	23	7	2	0
2	東松山OP	23	7	2	0
3	秩父	23	7	2	0
4	鳩山	22	7	1	1
5	児玉	20	6	2	1
6	東松山	14	4	2	3
7	行田	13	4	1	4
8	小鹿野	12	3	3	3
9	熊谷	11	2	5	2
10	めめま	9	3	0	6
11	セントラル	8	2	2	5
12	深谷	8	2	2	5
13	小川	6	2	0	7
14	寄居	5	1	2	6
15	吉見	3	1	0	8
16	クマガヤ	3	1	0	8

シニア 50サッカーリーグ

●第9節終了時

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	順位	チーム名	勝点	勝	分	負
1	川口	17	5	2	0	11	東春	8	2	2	2
2	深谷	16	5	1	0	12	越谷	8	2	2	2
3	与野	15	5	0	1	13	熊谷	5	1	2	4
4	東松山	14	4	2	1	14	本庄	5	1	2	4
5	川越	13	3	4	0	15	浦和	5	1	2	4
6	市高	13	4	1	1	16	大宮	3	1	0	6
7	所沢	13	4	1	2	17	戸田	2	0	2	5
8	パルス	13	4	1	2	18	セントラル	1	0	1	5
9	NTT	13	4	1	1	19	蕨	0	0	0	7
10	鴻巣	11	3	2	2						

2010年度埼玉県シニア 60リーグ

●3節終了時

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	差
1	FFC	9	3	0	0	+6
2	Gファイター	6	2	0	1	+1
3	パルス	3	1	0	2	-2
4	ボラリス	0	0	0	3	-5

フットサル

第10回埼玉県フットサルリーグ 1部

●6月12日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	烏天狗	9	3	0	0	23	11	+12
2	坂戸龍門	7	2	1	0	15	5	+10
3	IMPERIO	7	2	1	0	7	4	+3
4	FFC Estrela	6	2	0	1	8	5	+3
5	マカブ〜	4	1	1	1	9	9	0
6	pal'u.wo	3	1	0	1	12	12	0
7	THOMAS FC	3	1	0	2	8	8	0
8	ロクFC	3	1	0	2	7	11	-4
9	F&F	2	0	2	1	9	11	-2
10	Mf	1	0	1	2	4	15	-11
11	FC川越	0	0	0	3	5	16	-11

埼玉県女子フットサルリーグ

●6月20日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	武蔵丘短大	15	5	0	0	66	10	+56
2	Aventura	9	3	0	0	30	3	+27
3	武蔵浦和FC	9	3	0	1	23	13	+10
4	dolce de donna	6	2	0	2	30	15	+15
5	I.F.C/ems	6	2	0	1	17	12	+5
6	CHU-BAR	6	2	0	1	9	16	-7
7	FUKAYA	3	1	0	2	4	15	-11
8	り〜すなぶる。	3	1	0	3	2	28	-26
9	ロクFC Grama	1	0	1	3	0	21	-21
10	chechio	1	0	1	3	1	29	-28
11	FILHO Ladies	0	0	0	3	1	21	-20

大会記録 ● 県外大会 (埼玉関係のみ)

1種・社会人

関東社会人リーグ

●後期第3節終了時

1部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
2	さいたまSC	17	5	2	4	17	13	+4
8	ACアルマレッザ	6	2	0	9	10	32	-22

2部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
5	ルミノソフ狭山	15	4	3	4	17	27	-10

第40回全国自治体職員サッカー選手権大会南関東地区予選

6月12日～14日 千葉市青葉の森スポーツプラザ陸上競技場

1回戦	所沢市	1-1	千葉県
		(4PK5)	
	さいたま市	4-0	茅ヶ崎市
	上尾市	1-3	市川市
2回戦	さいたま市	2-2	市川市
		(4PK3)	
敗者復活戦	所沢市	2-1	船橋市
	上尾市	2-2	茅ヶ崎市
		(2PK4)	
決勝	さいたま市	2-1	横浜市

※優勝したさいたま市を含む5チームが全国大会に出場する。

1種・大学

JR 東日本カップ関東大学サッカーリーグ戦

●第10節終了時

2部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
10	尚美学園大学	9	2	3	5	9	20	-11

2010年度 第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

関東代表決定戦

5月30日～6月6日

●Aブロック

1回戦	尚美学園大学	5-3	桐蔭横浜大学
		(延長)	
	平成国際大学	0-2	法政大学
2回戦	尚美学園大学	0-3	明治大学

2種

JFAプリンスリーグ U-18関東

●第9節終了時

1部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
3	浦和レッドダイヤモンズユース	16	5	3	1	21	12	+9
12	武南高校	1	0	8	1	5	21	-16

2部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	大宮アルディージャユース	23	7	0	2	20	5	+15
10	浦和東高校	7	2	6	1	7	17	-10

平成22年度 第53回関東高等学校サッカー大会

6月5日～7日 群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場他

●Aグループ

1回戦	西武台	4-2	益子芳星
2回戦	西武台	7-2	駒大高
決勝	西武台	6-1	水戸商

※西武台が優勝

1回戦
西武台 vs 益子芳星



2回戦
西武台 vs 駒大高



決勝
西武台 vs 水戸商



●Bグループ

- 1回戦 正智深谷 4-2 常総学院
- 2回戦 正智深谷 1-2 前橋育英

※優勝は前橋育英



正智深谷 vs 常総学院

平成22年度日本クラブユースサッカー選手権(U-18)

●第5節終了時
3部リーグ・Dブロック

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
4	ACフツオー	6	2	0	3	6	14	-8
5	ACアルマレッザ	3	1	0	4	5	18	-13

3種

2010関東ユース(U-15)サッカーリーグ

●6月20日現在
1部リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	大宮アルディージャジュニアユース	16	5	1	1	17	10	+7
2	浦和レッズジュニアユース	15	5	0	2	19	9	+10

女子

関東女子リーグ

●6月21日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
2	浦和レッズジュニアユース	15	4	3	1	13	9	+4
3	武蔵丘短期大学	12	4	0	3	14	5	+9

第19回関東高等学校女子サッカー選手権大会

6月12日~20日 東京国際大学他

- 1回戦 松山女子 0-8 幕張総合
- 埼玉平成 3-1 太田商業
- 久喜 0-0 常磐大学 (4PK3)
- 2回戦 本庄第一 3-2 横浜翠陵 (延長)
- 埼玉平成 0-5 村田女子
- 久喜 0-3 宇都宮文星
- 3回戦 本庄第一 0-7 十文字



決勝 十文字 vs 日本航空

※優勝は十文字高校。

本庄第一 vs 横浜翠陵



フットサル

第26回全国選抜フットサル大会関東大会

6月5日、6日 ウイングハット春日部

●Aブロック

- 1回戦 埼玉県 4-3 茨城県
- 代表決定戦 埼玉県 2-10 東京都

競技規則の改正

日サ協発第100016号
2010年5月31日

関係各位

財団法人 日本サッカー協会

国際サッカー連盟(以下、FIFA)から2010年5月12日付け回状1224号をもって2010/11年の競技規則改正について通達されました。下記のとおり日本語に訳すと共に日本協会の解説を付しましたので、各協会、連盟などで、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願いいたします。

なお、これらの改正等は、2010FIFAワールドカップから効力を発生させるため国際的には6月1日から有効となりますが、日本協会、各地域/都道府県協会等が主催する試合については、例年どおり7月1日以降のしかるべき日(遅くとも8月中)から施行することとします。

2010/11年競技規則の改正について

第124回国際サッカー評議会(IFAB)年次総会が2010年3月6日にチューリッヒにおいて開催された。総会において競技規則の改正が承認され、以下のとおり、様々な指示および方向性が示された。

競技規則の改正および評議会の決定

1. 第1条 - 競技のフィールド (FIFAからの提案)

ゴール

【現在の文章】

ゴールポストとクロスバーは、木材、金属またはその他の承認された材質でできていなければならない。その形は正方形、長方形、円形、楕円形のいずれかで、競技者に危険なものであってはならない。

▶【新しい文章】

ゴールポストとクロスバーは、木材、金属またはその他の承認された材質でできていなければならない。その形は正方形、長方形、円形、楕円形のいずれかでなければならず、競技者に危険なものであってはならない。

【理由】

現在の解釈を明確にするために、規定以外のゴールポストの形状は認められないことを示すこととした。

<日本協会の解説>

競技規則は、ゴールポスト、クロスバーの材質を、木材、金属等に限定し、形状についても、基本的考え方として競技者に危険でないものでなければならず(must)としているが、具体的な形状については、英文で、正方形、円形、楕円形で良い(may)と表現されていた。

しかしながら、実際の解釈上、これ以外の形状は認められないというものであり、これを正しく表現するため、"may"を"must"に変えることとし、これに応じて、和文も"でなければならず"という表現に修正した。

2. 第5条 - 主審 (スコットランドFAからの提案)

競技規則の解釈と審判員のためのガイドライン

負傷した競技者

【現在の文章】

この規定の例外は、次の場合にのみ適用される。

- ゴールキーパーが負傷したとき。
- ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突し、即座な対応が必要なとき。
- 重篤な負傷が発生したとき(例えば、舌が気道を塞ぐ、脳や心臓の震盪、脚の骨折)。

▶【新しい文章】

この規定の例外は、次の場合にのみ適用される。

- ゴールキーパーが負傷したとき。
- ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突し、即座な対応が必要なとき。
- 同じチームの競技者がぶつかり、即座の対応が必要なとき。
- 重篤な負傷が発生したとき(例えば、舌が気道を塞ぐ、脳や心臓の震盪、脚の骨折)。

【理由】

同じチームの競技者がぶつかり治療のためにフィールドから出た場合、数적不利益を被ることになり、公平でなくなると考えられたため。

<日本協会の解説>

競技者が重傷を負った場合、ここで言う"例外"を除き、競技時間の確保、円滑な競技の運営のために、フィールドの外で治療を受けなければならないとしている。"例外"とは、第3条によって必ず1名おかれなければならないゴールキーパーに係る治療と負傷が重篤で緊急性を要する治療で、これらの場合はフィールド上で施すことが可能としている。

これらに加え、競技時間の確保よりも、同じチームから2人以上の競技者が減るといった数적不利益の大きさを考えて、この事例も例外のひとつとされた。

3. 第5条 - 主審 (スコットランドFAからの提案)

競技規則の解釈と審判員のためのガイドライン

負傷した競技者

【現在の文章】

- 担架搬送者は担架を持ってドクターが入るのと一緒にフィールドに入り、負傷した競技者をできるだけ早く退出させる。

▶【新しい文章】

- 担架搬送者は、主審の合図を受けてから、担架を持ってフィールドに入る。

【理由】

ドクターがフィールドに入るよう求められた時にいつでも担架搬送者が入らなければならないとすると、余計な中断がより多く起きてしまうため。

<日本協会の解説>

競技者が重傷を負った場合でも、必ずしも担架で搬送する必要のないときもある。また、上記"例外"の状況においては、多くの場合担架が不必要

である。今後、主審が状況に応じて、担架の入場が必要かどうか判断し対応することによって、競技者の負傷対応に要する時間を短縮し、円滑なる試合運営することが期待される。

その他、国際サッカー評議会の決定

1. 第1条 - 競技のフィールド

競技規則の解釈と審判員のためのガイドライン ロゴおよびエンブレム

国際サッカー評議会は、有形、無形に関わらず、プレー時間中に、FIFA、大陸連盟、加盟協会、リーグ、クラブ、その他の団体を表すロゴやエンブレムをフィールド、ゴールネットとそれに囲まれたエリア、ゴールおよびフラッグポストに付けることが禁止されることを、再度表明するものである。

特に、これらのロゴをコーナーフラッグにつけることができないことを強調する。

2. ゴールライン・テクノロジー (第122回年次総会からの継続審議)

大多数の意見により、試合中におけるゴールライン・テクノロジーのみならず、おしなべてあらゆる機械技術の使用は排除されることになった。

<日本協会の解説>

サッカーは人がプレーし、人が審判するという基本的な考え方に基づき、ゴールライン・テクノロジー研究は中止された。そして、主審、副審で確認できないような、ボールがゴールに入ったかどうか等の判定精度向上を求め、追加副審導入の可能性を探ることになった。

追加副審の実験はUEFAヨーロッパ・リーグ2009/10シーズンの試合で行われたが、今後、大陸連盟、メンバー協会のレベルでこの実験を行われていくことになっている。

3. 競技規則における正式言語

競技規則の翻訳文章において疑義が生じた場合、英語の文章が正式なものになることを再確認した。

4. 審判員への追加指示

幾つかのメンバー協会、大陸が競技規則の施行に関してそれぞれの地域でのみの指示や勧告を勝手に審判員に行っているのが見受けられるが、これにより世界中で異なった競技規則の解釈の可能性が増大することになっている。全世界で統一された適用ができるようにするためにも、国際サッカー評議会 (あるいは、FIFA が評議会になり代わって) が、競技規則に関して唯一このような追加指示を発することのできる機関であることを改めて表明するものである。

以上に加え、国際サッカー評議会の特別会議が2010年5月18日にチューリッヒで開催され、更に、次の競技規則改正が承認された。

競技規則の改正及び評議会の決定

1. 第14条 - ペナルティーキック (FIFAからの提案)

競技規則の解釈と審判員のためのガイドライン 進め方

【現在の文章】

相手競技者を混乱させるためにフェイントを用いてペナルティーキックを行うことはサッカーの一部であり、認められる。しかしながら、フェイントが反スポーツ的行為となる行動であると主審が判断した場合は、それを行った競技者は警告されなければならない。

▶ 【新しい文章】

相手競技者を混乱させるために、ペナルティーキックの助走中にフェイントすることはサッカーの一部であり、認められる。しかしながら、競技者が一旦助走を完了した後にボールをけるフェイントについては、第14条に違反するとみなされ、それを行った競技者は反スポーツ的行為により警告されなければならない。

【理由】

ゴールキーパーを騙してペナルティーキックを行う競技者が増える傾向にあることを考えると、何が認められるのか、また違反があった時に主審がどのように対応しなければならないのか明確にする必要があったため。

<日本協会の解説>

これまでペナルティーキック時のフェイントは、それが反スポーツ的行為であると主審が判断した場合を除いて認められていた。また、具体例として、助走後ボールを跨いでゴールキーパーが動いた後にボールをけるというフェイントは、反スポーツ的行為であると説明されていた。

しかしながら、ボールを跨ぐ以外にも反スポーツ的なフェイントがあり、これらへの対応が十分でなかったことから、助走完了後のフェイントは反スポーツ的行為であることを明確に示すことになった。

キッカーが反スポーツ的なフェイントを行ってボールがゴールに入った場合、キッカーは警告されペナルティーキックはやり直しとなる。もしゴールに入らなかったならば、キッカーは警告され、守備側チームにペナルティーマークからの間接フリーキックが与えられる。

なお、ペナルティーキックを行う際、特定されたキッカー以外の攻撃側競技者がキックを行った場合、その競技者は反スポーツ的行為 (相手を欺いてペナルティーキックを行う) で警告され、守備側チームに間接フリーキックが与えられる。その場合、これまでの解釈では、特定されていない攻撃側競技者が反スポーツ的行為を行うためにエリア内に入ったので、違反

はその競技者がペナルティーエリアあるいはペナルティーアークで囲まれた地域に侵入した地点で犯されたと考え、間接フリーキックはエリア等に入ったところから行うとされていた。しかしながら、FIFAの新しい解釈はボールをけたことで違反が発生したと判断することになり、ボールをけた地点 (違反の地点)、つまりペナルティーマークからの間接フリーキックが守備側チームに与えられることになった。

また、キッカーがボールを後方に向けてペナルティーキックを行うことは反スポーツ的行為ではないが、ペナルティーキックの進め方に違反しているため、違反を犯した地点、つまりペナルティーマークからの間接フリーキックが守備側チームに与えられることになる。

2. 第4の審判員 (スコットランドFAからの提案)

第4の審判員およびリザーブ副審 (7つ目の●)

【現在の文章】

●第4の審判員は、警告する競技者の特定を間違えて別の競技者が警告されたときや、二つ目の警告が与えられたにもかかわらずその競技者が退場させられないとき、または主審および副審の見えないところで乱暴な行為が起きたとき、主審に合図しなければならぬ。しかしながら、主審は、プレーに関するすべての事柄を決定する権限を持つ。

▶ 【新しい文章】

●第4の審判員は、競技規則に従って、主審が試合をコントロールするのを援助する。しかしながら、主審は、プレーに関するすべての事柄を決定する権限を持つ。

【理由】

第4の審判員が主審を援助するには、現在の競技規則にある限定的な状況だけに限ることなく、サポートや助言ができるようその任務の範囲を広げられるべきであると判断されたため。

<日本協会の解説>

これまでの“第4の審判員”の任務は、主審の試合管理上の任務や交代の援助の他、警告するべき競技者と異なった競技者を警告したとき、二つ目の警告でも退場が命じられない、あるいは主審、副審の視野外の乱暴な行為を確認したとき、主審にその事実を伝えることに限定されていた。今回の改正により、これらの限定的な状況に限ることなく、必要であれば主審にその事実を伝え、追加的に主審を援助できるよう、その任務の範囲が広がられた。

もっとも、副審のように、主審が見えなかった不正行為や主審より副審がよりはっきりと見える反則について逐一伝えると言うことではなく、副審でさき明らかに見逃し、誰にもその事実が明白である出来事についてのみ主審に伝えることになる。また、主審が試合に関する最終的な判断の権限を有することは変わらない。

2010/2011 競技規則の施行

国際サッカー評議会は、第124回年次総会及び特別会議における決定を2010年6月1日から施行することとし、については2010年FIFAワールドカップにおいて適用することを満場一致で合意した。

国際サッカー連盟 事務局長
ジェローム・ヴァルック

JFA 47FA 訪問会議開催

5月14日、埼玉スタジアム・管理会議室において、「47FA 訪問会議」開催が開催された。JFAからは加賀山公・事業部長、吉田靖・技術委員会副委員長兼関東ユースダイレクター、島田信男・技術部長、湯川和之・PHQ部長代理の4名が出席した。

まず加賀山部長より、2011年度からJFA主催大会における小学生年代の8人制の導入の決定、9月以降に公益法人法の説明会の開催、ワールドカップ招致を2022年に絞り込んだという



連絡があり、続いて島田部長から「育成年代の指導者～求めるべき指導者像～」というプレゼンテーションがあり、湯川部長代理から「2011年度以降の基本還元金とPHQ各種支援制度計画について」の説明があった。

SFAからは、主に8人制に対して考え方、ユースダイレクターの位置

づけ、トレセンなどについての質問があったが、その多くが「持ち帰る」「検討する」という返答だった。特出すべきは、星野副会長が「4種年代では育成が目的であるのならば、全日本少年サッカー大会はなくすべきではないか？ 勝つこと(全日本少年サッカー大会)と育成(リーグ戦)の二つを追うのは難しいのでは？」という質問を行ったところ、島田部長から「実際にそういった意見はあるので、早く決めていきたい。リーグ戦に関しては価値を見出せるチームのみでやっていけばいいと考えている。リーグ戦は大事だと考えているので、後からでも参加できるような環境を整備していく」との返答があった。



平成21年度収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

財団法人 埼玉県サッカー協会
(単位：円)

	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	(500,000)	(169,564)	(330,436)	
基本財産利息収入	500,000	169,564	330,436	
事業収入	(102,857,000)	(94,012,159)	(8,844,841)	
(1) 参加料収入	37,415,000	31,491,467	5,923,533	
(2) 事業補助金収入	22,509,000	18,096,970	4,412,030	
(3) 運営受託金収入	9,700,000	9,610,725	89,275	
(4) 売店出店手数料収入	1,200,000	650,364	549,636	
(5) リコー共益費収入	5,000,000	5,862,000	△ 862,000	
(6) 入場料収入	10,700,000	10,691,000	9,000	
(7) プログラム販売収入	8,373,000	8,981,400	△ 608,400	
(8) 広告料収入	2,160,000	1,823,000	337,000	
(9) 物品販売収入	5,800,000	6,805,233	△ 1,005,233	
補助金収入	(35,806,000)	(38,127,520)	(△ 2,321,520)	
(1) 日本協会補助金収入	28,106,000	30,965,225	△ 2,859,225	
(2) 県体育協会、埼玉県補助金収入	7,700,000	7,162,295	537,705	
登録料収入	(168,883,000)	(169,203,300)	(△ 320,300)	
(1) チーム選手登録料収入	114,057,000	114,468,100	△ 411,100	
(2) 役員登録料収入	325,000	350,000	△ 25,000	
(3) 審判員登録料収入	54,501,000	54,385,200	115,800	
寄附金収入	(22,000,000)	(25,315,150)	(△ 3,315,150)	
(1) 協賛金収入	22,000,000	25,315,150	△ 3,315,150	
雑収入	(156,000)	(1,121,001)	(△ 965,001)	
(1) 受入利息	6,000	100,042	△ 94,042	
(2) 雑収入	150,000	1,020,959	△ 870,959	
事業活動収入計	330,202,000	327,948,694	2,253,306	
2. 事業活動支出				
事業費	(291,253,000)	(276,706,722)	(14,546,278)	
(1) 競技会開催事業費	70,897,000	62,721,245	8,175,755	
(2) 選手育成登録事業費	110,706,000	107,332,313	3,373,687	
(3) 指導者審判員養成登録事業費	67,472,000	68,096,514	75,486	(注1)
(4) 普及調査研究事業費	700,000			
(5) 普及調査研究事業費	31,688,000	30,545,511	1,142,489	
(6) 代表チーム選定派遣事業費	1,570,000	1,104,592	465,408	
(7) 地域間・国際交流事業費	3,000,000	2,000,100	999,900	
(8) 広報誌等刊行事業費	5,220,000	4,906,447	313,553	
管理費	(48,314,000)	(46,296,533)	(2,017,467)	
(1) 人件費	26,100,000	25,281,510	818,490	
(2) 福利厚生費	3,700,000	3,369,293	330,707	
(3) 会議費	1,900,000	1,782,367	117,633	
(4) 旅費交通費	1,600,000	1,588,217	11,783	
(5) 通信運搬費	1,500,000	1,450,643	49,357	
(6) 什器備品費	150,000	126,000	24,000	
(7) 消耗品費	300,000	286,970	13,030	
(8) 印刷製本費	2,000,000	1,978,792	21,208	
(9) 使用賃借料	8,000,000	7,703,811	296,189	
(10) 租税公課費	50,000	3,000	47,000	
(11) 諸会費	50,000	11,000	39,000	
(12) 慶弔費	150,000	85,017	64,983	
(13) 委託費	1,900,000	1,894,515	5,485	
(14) 雑費	614,000	594,984	19,016	
(15) 交際費	300,000	140,414	159,586	
特別事業積立金支出	(100,000)	(66,457)	(33,543)	
特別事業積立金支出	100,000	66,457	33,543	
法人税等	(7,648,000)	(7,648,000)	(0)	
法人税等	7,648,000	7,648,000	0	
事業活動支出計	347,315,000	330,717,712	16,597,288	
事業活動収支差額	△ 17,113,000	△ 2,769,018	△ 14,343,982	
II 予備費支出	(22,196,460)	(0)	(22,196,460)	
予備費	22,896,460	0	22,896,460	
	△ 700,000	0	△ 700,000	(注1)
当期収支差額	△ 39,309,460	△ 2,769,018	△ 36,540,442	
前期繰越収支差額	39,309,460	39,309,460	0	
次期繰越収支差額	0	36,540,442	△ 36,540,442	

(注1) 予備費△700,000円は、事業費のうち指導者審判員養成登録事業費に流用した。事業費のうち指導者審判員養成登録事業費の予算額は予備費からの充当を含む。

インターンシップ2期生講習会開催

3月17日から、平成国際大学においてJFA公認C級コーチ養成講習会・SFAインターンシップコースが開催された。講師はインストラクターの西川誠太氏(平成国際大学)。春休みということもあり、6名(平成国際大学2名、文教大学2名、目白大学1名、獨協大学1名)の受講となった。1期生とともに、早ければ7月から県内の中学校へ派遣されることになる。



JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル 2010in 埼玉スタジアム2002開催

5月9日という初夏の気持ちのいい日差しの中、子供たちが埼玉スタジアム第2グラウンドに集まってくれました。参加してくれたのは32チーム、634名(うち女子が34名)でした。

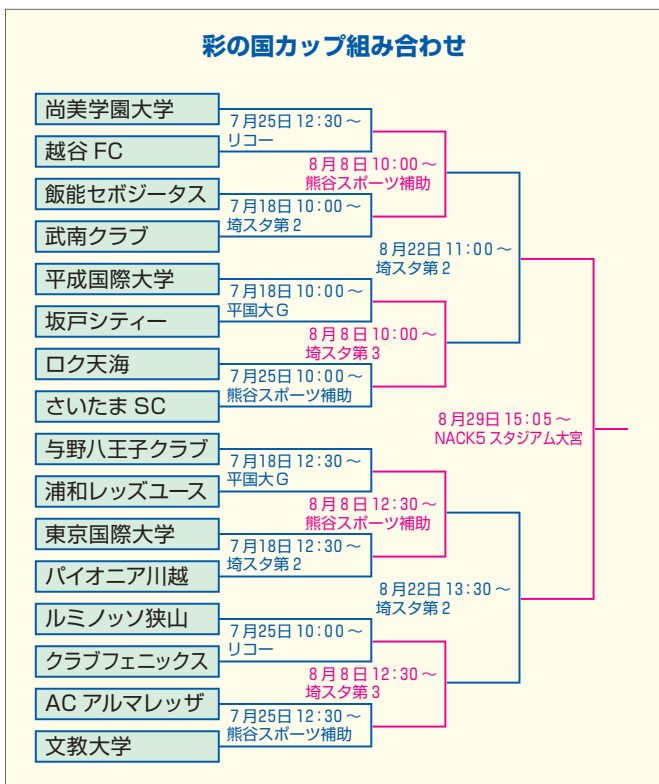
こういう場が、県内各地の芝のグラウンドで展開できるよう、環境を整えていきたいものです。



インフォメーション

●「彩の国カップ」開幕!

7月18日から、天皇杯出場をかけて、「平成22年度彩の国カップ第15回埼玉県サッカー選手権大会」が開催される。今年はチーム数を増やし、16チームで頂点を競う。尚美学園大学の3連覇なるか、社会人チームが巻き返すのか。それとも浦和レッズユースが兄弟対決に挑むのか。決勝は8月29日(日)、NACK5スタジアム大宮で開催される。ぜひともご覧ください。



●「天皇杯」は9月3日(金)から1回戦

第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会が、今年も全国で開催される。1回戦は9月3日(金)からスタートし、5日(日)には2回戦となり、Jクラブもここから登場する。注目は、やはりその2回戦。埼玉県代表が1回戦と突破すると、浦和レッズと対戦することになっている。埼玉県代表には、栃木県代表に勝ってもらい、駒場に来てほしいものだ。※3回戦以降は、次号で紹介

- 1回戦 9月3日(金)
 15時~ 香川県代表 対 高知県代表 熊谷
 18時~ 埼玉県代表 対 栃木県代表 //
- 2回戦 9月5日(日) 17時~
 浦和レッズ 対 埼玉県代表対栃木県代表の勝者 駒場
 大宮アルディージャ 対 香川県代表対高知県代表の勝者 NACK5

●「埼玉国際ジュニアサッカー大会2010」開催

7月23日~25日まで、今年で9回目となる「埼玉国際ジュニアサッカー大会」が、埼玉スタジアム2002 他 の会場で開催される。参加チームは以下の通り。

海外チーム

中華人民共和国・山西省選抜、マレーシア選抜、タイ王国選抜、バーレーン王国選抜、大韓民国・仁川広域市選抜、フランス共和国・パリSG

都府県選抜チーム

茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、山梨県、愛知県、岡山県、高知県、佐賀県、熊本県、沖縄県

埼玉県内チーム

埼玉県A選抜、埼玉県B選抜、埼玉県C選抜、埼玉県D選抜、埼玉県E選抜、川口市選抜

詳細は、以下まで。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/football/junior2010.html>

●事務局より

・本年22年度から4年間、関東サッカー協会の事務局を埼玉県協会が担当することになりました。同時に、関東協会の会長、副会長、理事長については、それぞれ埼玉県協会の役員が兼務することになりました。

・この関東協会担当に伴い、その業務遂行のため、事務局員の森山 武夫氏を事務局長代行としました。よろしくお願ひします。

編集後記

●さあ~世紀の祭典、W-Cup 南アフリカ大会が始まりました。我々が「さむらいジャパン」は、初戦のカメルーン戦に競り勝ち、自国以外で開催されたW-Cupで初勝利をあげました。本県ゆかりの中澤・川島選手、レッズの阿部選手の活躍で決勝トーナメントに進出してほしい。寝不足の日々にめげずしっかり応援しましょう。(高橋)

●SFA NEWSが出るころは、ワールドカップ南アフリカ大会も決勝トーナメントの準々決勝あたりかと思ひます。優勝候補にはブラジル、スペインなどが候補にあげられているようですが、何といつても日本代表が初戦のカメルーン戦に勝って、その勢いで決勝トーナメントに進んでもらうことを祈念していま

す。大会期間中は寝不足が心配ですが、頑張つて応援します。(森山)

●ワールドカップもこれからいっそう白熱した試合が展開されると思ひます。体調管理をシッカリして下さい。ワールドカップがライブで見られるなんて、昔は……(坂庭)

●走りたい(ジョギングしたい)「気持ち」があります。走るための「ウェア」も「時間」もあります。唯一足りないのは……『行動力』★(こいち)

●先日友達から「モンブラン作ったよ~」とメールがあったのですが、買う物と思っていた私は手作りにビックリ! 何と持ってきてくれて食べてみたら、手作りとは思えない程の出来栄と、あまりの美味しさにまたビッ

クリでした!!(かのう)

●7月から始まる「彩の国カップ」。ここで天皇杯出場権を手にした県代表チームは、天皇杯1回戦を突破すると……浦和レッズとのプロ・アマ埼玉ダービーが実現します。皆さん、まずは「彩の国カップ」に足を運びましょう!(小豆澤)

●夏本番! 全然海に行けていないので今年こそは行きたいなと思ひています。ただ海に行く為には早急に腹筋を鍛えなければという問題点が……(笑)。(佐々木)

●先日、埼玉スタジアムで全日本少年サッカー大会が行われました。年々選手の体が大きくなっていくのに驚かされます。私の年代の中学生の身長です。これからが楽しみです。(栗島)